

## 産学官連携イベントレポート

# 産学連携を推進するための第3回乳酸菌国際シンポジウム 『乳酸菌による予防医学・未病医学への貢献』(H22.12/10)

広島大学、(公財)ひろしま産業振興機構の主催で、「乳酸菌による予防医学・未病医学への貢献」と題して、産学連携を推進するための第3回乳酸菌国際シンポジウムが、12月10日(金)、メルパルク広島にて開催されました。

本シンポジウムは、アジア地域における乳酸菌に関する研究成果の紹介と産学官連携の推進を目的に開催されたもので、韓国の大学研究者や企業の開発担当者のほか、中国の研究者、広島大学、九州大学の研究者による最新の乳酸菌研究の成果発表が行われました。これまでに、「第1回日韓国際シンポジウム」(広島市)、「第2回日韓国際シンポジウム」(韓国・ソウル市)が行われましたが、いずれも成功裡に終了したため、今回は日韓の枠を超え、アジア地域に広げて開催することになったものです。

本シンポジウムを主催した広島大学より、シンポジウムの概要についてご紹介します。

シンポジウムは、代表世話人である広島大学大学院医歯薬学総合研究科の杉山政則教授の開会あいさつによりスタートしました。あいさつでは、これまでのシンポジウムの経緯の紹介の後、乳酸菌による予防医療や未病への応用が大いに期待できる微生物として紹介がありました。



挨拶する広島大学の杉山政則教授

続いて、日本、韓国、中国の6名の大学研究者より、産学連携を推進するための最新の乳酸菌研究の成果について、それぞれ35分の講演をいただきました。また、企業の講演では、高原安瀬平乳業の児玉社長より、「新しいタイプの植物乳酸菌ヨーグルト」の紹介、中国醸造株式会社の白井社長より、「産学連携によるヘルスケア事業への取り組み」の紹介、韓国の南陽乳業中央研究所のシン開発チーム長より、「世界におけるヨーグルト市場の現状と乳酸菌製品の開発戦略についての紹介」がありました。

各講演の後の質疑では、最新の乳酸菌研究の成果について、参加者より活発な質問が出されていました。

会場には79名の大学・公的機関、企業からの参加があり講演を熱心に聞き入っていました。



講演する広島大学の香西克之教授

<当日のプログラム>

- 10:00 - 10:10 開会あいさつ 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 杉山政則
- 10:10 - 10:45 う蝕の病因とラクトバチルス属細菌によるう蝕阻害  
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 香西克之
- 10:45 - 11:20 ラクトバチルス属乳酸菌と多糖類によるウイルスの増殖阻害  
韓国 カトリック大学 医学部 教授 ペク・ソンヨン
- 11:20 - 11:55 腸内細菌叢のコミュニティ構成と免疫機能  
九州大学大学院 農学研究院 准教授 中山二郎
- 13:15 - 13:50 ラクトバチルス・サリバリウスのプロバイオティック機構  
北京科学アカデミー 微生物研究所 教授 リ・イン
- 13:50 - 14:25 植物乳酸菌のゲノム解析とポストゲノミクス  
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 的場康幸
- 14:25 - 15:00 キムチ由来の乳酸菌の機能性  
国立釜山大学 食品化学・栄養学科 教授 パク・クンヨン
- 15:20 - 15:45 新しいタイプの植物乳酸菌ヨーグルトの開発  
高原安瀬平乳業 社長 児玉克憲
- 15:45 - 16:10 産学連携によるヘルスケア事業への取り組み  
中国醸造株式会社 社長 白井浩一郎
- 16:10 - 16:35 世界におけるヨーグルト市場の現状と乳酸菌製品の開発戦略  
韓国 南陽乳業 中央研究所 開発チーム長 シン・ドンケン
- 16:35 - 16:45 閉会あいさつ 広島大学 産学・地域連携センター センター長 澤俊行

この他、会場では産学連携の共同研究により開発された、植物乳酸菌ヨーグルトが関係企業より提供され、参加者に試食していただきました。

今回の開催は、中国北京市ということで大盛り上がりのうちに終了しました。